

# 大沢家本願寺関係文書に記された安政東海・南海地震

平井敬\*(名古屋大学減災連携研究センター)

## §1. はじめに

2020年1月、岐阜県在住の大沢喜久氏宅にて、1854年安政東海・南海地震および1855年安政江戸地震に関するまとまった量の史料が発見された。保存されていた状態と内容から、西本願寺とそれに関係する寺院・人物により書き留められた記録を集めて綴じたものであることが分かる。本稿では、これらの文書を「大沢家本願寺関係文書」と呼ぶこととし、その概要と調査状況について報告する。なお、本稿は日本地震学会2020年度秋季大会で発表した内容<sup>1)</sup>を進展させたものである。

## §2. 史料の概要

文書全体としては、西本願寺とそれに関係する寺院・人物にかかわる記録を集めたものである。そのため、地震の記録に限ったものではなく、將軍家へ進上した品々の記録なども存在している。地震関係では、1854年安政東海・南海地震に関する記録「諸国地震並津浪一件」一番(図1左)から四番までの4冊と、1855年安政江戸地震に関する記録「江戸地震大火一件」一番(図1右)・二番の2冊があり、総計900枚ほどの量がある。大沢家所蔵の文書の一部については、岐阜県歴史資料館において目録<sup>2)</sup>が公開されているが、大沢家本願寺関係文書に含まれるものに関しては記載がなく、新出と考えられる。

詳細な内容把握と分析は今後の課題となるが、現時点で解読できている部分については、安政元年十一月四日(1854年12月23日)の安政東海地震発生の直後から数日間にかけて交わされた手紙が主体である。差出人と宛名からは、西本願寺と大坂津村御坊(北御堂)や摂津・大和・紀伊・近江の末寺との間のやり取りであることが分かる。

## §3. 大坂道頓堀への津波遡上に関する記述

大坂所在の筆者による手紙では、寺院の損傷状況に加えて、よく知られた道頓堀への津波の遡上に関する話題が頻繁に出現している。中でも、和泉屋源左衛門なる人物が南海地震翌日に道頓堀川での犠牲者の様子を見た記録には、真に迫った凄惨な描写が含まれている。

「私見候内ニ五六人も引出し申候。右之内ニハ手之ちきれ候死体も有之。足のなきも有之。全くハ船のもみ合ニ而すり切レ候事と相見へ申候。中々目も当テられ不申候。いたわしき有様、中ニハ二三才之子をいたき廿五六才之女、船と船とニはさまれ死かい

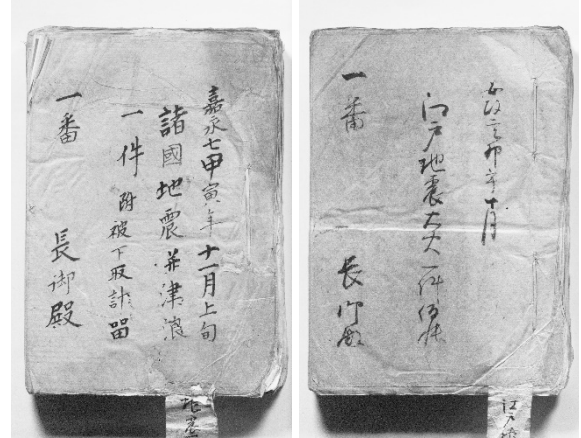


図1 大沢家本願寺関係文書

急ニ取はなしかたき分も見受、誠に身の毛もよたち候心地ニ相成申候。ケ様ニハ申上候へ共、迎も迎も見受候丈之事、筆力ニ書取及かた、唯々あわれ相成申候」

ここには、大阪市浪速区の「大地震両川口津浪記」の文面や同時代のかわら版などには記載されていない生々しい光景が記されている。

## 謝辞

大沢喜久氏には、大沢家本願寺関係文書の閲覧とデジタルスキニングを許可いただき、心より感謝申し上げます。京都大学の中西一郎名誉教授と名古屋大学の石川寛准教授には、大沢家に関する情報を提供していただくとともに、大沢氏との面会の機会を作っていただいた。名古屋大学の山中佳子准教授には、大沢家本願寺関係文書のデジタルスキニングに係る費用を拠出いただいた。また、大沢家本願寺関係文書の解読にあたっては、名古屋大学減災連携研究センター古文書勉強会(大沢家文書研究会)の協力をいただいた。それぞれ、ここに記して感謝の意を表する。

## 参考文献

- 1) 平井敬: 大沢家本願寺関係文書に含まれる地震史料, 日本地震学会2020年度秋季大会講演予稿集, S10P-02 (2020)
- 2) 岐阜県: 岐阜県所在史料目録, <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/13443.html> (2021年7月27日参照)